

EBMを実践していくうえで(1)問題の定式化(2)情報検索(3)情報の質の吟味(4)症例への適用(5)自己評価 の5つのステップがあります。Evidenceについては、例えば、出版された論文が信用できるものか、社会一般の査読プロセスへの信頼性などが充分であるかという吟味をしなければなりません。増加が著しい医学文献の中から入手した情報が重要、妥当であり、目の前の患者(対象者)に応用できるかどうか、対象者の人種や価値観、好みが其々違うように、その情報が全てに適用するかどうか、また、臨床試験が医薬品の臨床試験の実施の基準(GCP)を遵守していること等も評価の対象となります。

批判的な論文の読み方としては、その論文が原著論文だけでなく、メタアナリシスなどの総説論文も対象とし、研究の目的・環境、偏見、副作用の評価が適切か、臨床に適用出来るか等がチェック項目となります。これらは読み手の判断に委ねられます。この他にも、研究目的で企業からの研究費を受けているのを明確にしないケースもあります。支給されていることを非難しているのではなく、受理したことを明確にし、常に透明であることが求められ、このように様々な利害の衝突が適切に処理されているかもポイントとなります。「臨床技能」「対象者の価値観」「外的根拠」の3つの融合された部分をEBMとするなら、これらは「外的根拠」にあたり、医師对患者の關係に大きく影響を与える重要な扱いとなります。

EBMは、情報検索の結果や、臨床にGCPを遵守しているかなど様々な観点で吟味され、信頼性や倫理性の高い方法で採択され、Evidenceが正当であることが証明されて、初めて実践されることになるのです。

<参考文献>

- ・ 縣 俊彦 「EBM医学研究・診療の方法論」中外医学社<WB102/Ka24(2)>
- ・ 中山健夫 「EBMを用いた診療ガイドライン 作成・活用ガイド」金原出版<WB102/N45>

*** 図書館トリビア ***

利用者からの要望もあり、閲覧室やスタディールームの利用時間を24時までにしてから3年が経ちました。喫煙、飲食などのマナー違反に加えて、最近目に付くのは荷物の放置です。私物を置き継続的に席を専有するというかなり悪質な行動です。図書館では、定期的点検、放置荷物の撤去・廃棄を定期的に行っています。公共の場である図書館を利用する際のマナー厳守にご協力ください！

メールマガジンに関する意見・質問は、運用係 unyo@lib.iwate-med.ac.jp まで。